

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年9月6日(2007.9.6)

【公表番号】特表2003-507445(P2003-507445A)

【公表日】平成15年2月25日(2003.2.25)

【出願番号】特願2001-518398(P2001-518398)

【国際特許分類】

C 07 C	27/00	(2006.01)
C 07 C	51/12	(2006.01)
C 07 C	53/08	(2006.01)
C 07 C	67/36	(2006.01)
C 07 C	69/14	(2006.01)
B 01 J	23/648	(2006.01)
C 07 B	61/00	(2006.01)

【F I】

C 07 C	27/00	3 2 0
C 07 C	51/12	
C 07 C	53/08	
C 07 C	67/36	
C 07 C	69/14	
B 01 J	23/64	1 0 2 Z
C 07 B	61/00	3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成19年7月18日(2007.7.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】反応体、一酸化炭素及びハライドを含む蒸気混合物と、有効量のイリジウム並びにバナジウム、ニオブ、タンタル、それらの各塩及びそれらの混合物からなる群から選ばれる第2の金属から本質的になり、イリジウム及び第2の金属が固体触媒担体材料と組み合わされている、担持触媒とを、カルボニル化反応器のカルボル化ゾーン中にいて、気相条件下にし、接触させることを含んでなる低級アルキルアルコール、エーテル、エステル及びエステル-アルコール混合物を含む反応体からエステル及びカルボン酸を製造する方法。

【請求項2】前記反応体が炭素数1～10の低級アルキルアルコール、炭素数2～6のアルカンポリオール、炭素数3～20のアルキルアルキレンポリエーテル及び炭素数3～10のアルコキシアルカノール並びにそれらの混合物からなる群から選ばれる請求項1に記載の方法。

【請求項3】前記反応体がメタノールである請求項1に記載の方法。

【請求項4】前記反応体がジメチルエーテルである請求項1に記載の方法。

【請求項5】前記気相カルボニル化によって製造されるエステル及びカルボン酸が酢酸、酢酸メチル及びそれらの混合物を含む請求項1に記載の方法。

【請求項6】前記ハライドが塩素、臭素、ヨウ素及びそれらの混合物からなる群から選ばれる請求項1に記載の方法。

【請求項7】前記ハライドがヨウ化水素、気体ヨウ化水素酸；ヨウ化メチル、ヨウ

化エチル、1 - ヨードプロパン、2 - ヨードブタン、1 - ヨードブタン、ヨウ化ベンジル、臭化水素、臭化メチル及びそれらの混合物からなる群から選ばれる炭素数12以下のヨウ化アルキル及びアリールからなる群から選ばれる請求項6に記載の方法。

【請求項8】 前記ハライドがヨウ素、ヨウ化水素、ヨウ化メチル、臭素、臭化水素、臭化メチル及びそれらの混合物からなる群から選ばれる請求項7に記載の方法。

【請求項9】 前記カルボニル化ゾーンを温度100～350 及び圧力1～50バール(絶対)に保持する請求項1に記載の方法。

【請求項10】 前記固体担体が、炭素、活性炭、軽石、アルミナ、シリカ、シリカ-アルミナ、マグネシア、珪藻土、ボーキサイト、チタニア、ジルコニア、クレイ、珪酸マグネシウム、炭化珪素、ゼオライト、及びセラミックスからなる群から選ばれ、かつ約200～約1200m²/gの表面積を有する請求項1に記載の方法。

【請求項11】 前記触媒がイリジウム及び前記第2の金属をそれぞれ0.01～10重量%含む請求項1に記載の方法。

【請求項12】 前記触媒がイリジウム及び前記第2の金属をそれぞれ0.1～2重量%含む請求項1に記載の方法。

【請求項13】 前記気体反応体がさらに、水対メタノールのモル比を0.01：1～1：1とする量で水を含む請求項3に記載の方法。

【請求項14】 前記固体担体が炭素及び活性炭から選ばれる請求項10に記載の方法。

【請求項15】 (a) メタノール、一酸化炭素並びに塩素、臭素、ヨウ素及びそれらの混合物を含む化合物からなる群から選ばれるハライドを含む蒸気混合物をカルボニル化条件の100～350 及び1～50バール(絶対)の温度及び圧力下で担持触媒と接触させ；そして

(b) 蒸気生成物から酢酸、酢酸メチル又はそれらの混合物を回収する工程を含んでなる酢酸、酢酸メチル又はそれらの混合物の製造方法であって、前記触媒が、有効量のイリジウム並びにバナジウム、ニオブ、タンタル、それらの各塩及びそれらの混合物からなる群から選ばれた第2の金属から本質的になり、イリジウム及び第2の金属が炭素、活性炭、シリカ、シリカ-アルミナ、ジルコニア、クレイ、珪酸マグネシウム、炭化珪素、ゼオライト及びそれらの混合物からなる群から選ばれた固体触媒担体材料と組み合わされている方法。

【請求項16】 前記第2の金属がバナジウム、ニオブ、それらの各塩及びそれらの混合物からなる群から選ばれる請求項15に記載の方法。

【請求項17】 前記ハライドがヨウ素、ヨウ化水素、ヨウ化メチル、臭素、臭化水素、臭化メチル及びそれらの混合物からなる群から選ばれる請求項15に記載の方法。

【請求項18】 前記触媒がイリジウム及び前記第2金属をそれぞれ0.1～2重量%含む請求項15に記載の方法。

【請求項19】 (a) メタノール、一酸化炭素並びにヨウ素、ヨウ化水素、ヨウ化メチル、臭素、臭化水素、臭化メチル及びそれらの混合物からなる群から選ばれたハライドを含む蒸気混合物を、イリジウム0.1～2重量%ならびに元素の周期表のバナジウム、ニオブ、タンタル金属、それらの各塩及びそれらの混合物からなる群から選ばれた第2の金属0.1～2重量%を含む活性炭担持触媒と、カルボニル化条件の150～275 及び1～50バール(絶対)の温度及び圧力下に、接触させ；そして

(b) 蒸気生成物から酢酸、酢酸メチル又はそれらの混合物を回収する工程を含んでなる、酢酸、酢酸メチル又はそれらの混合物の製造方法。

【請求項20】 酢酸が目的生成物であり、且つ前記気体混合物が酢酸メチル及びジメチルエーテルからなる群から選ばれたエステル又はエーテルの少なくとも一方を更に含む請求項19に記載の方法。